第 4 回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)

All Japan Educational Model United Nations

～大会報告書～

2021 年 1 月 10 日(日)・11 日(月祝)　開催

目次

大会実行委員長より ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

大会セクションリーダーより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

大会概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

今大会の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　―大会スケジュールに関して
　―オンライン開催に関して

賞受賞者一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

各議場講評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

参加者アンケート集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

大会事務局長より ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

参加校一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

大会実行委員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

大会役員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

主催・後援・助成・協賛企業一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

次年度大会の案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

大会実行委員長より

大会実行委員長
駒場東邦高等学校　棚澤 哲

皆様、この度は第4回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)にご参加いただき誠にありがとうございました。

本来であれば本大会は夏にオリンピックセンターで開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、延期とせざるを得ませんでした。ですが、世界中で新型コロナウイルスと闘う感染者の方々、医療従事者の方々、エッセンシャルワーカーの方々がいる中でオンラインとはいえ、模擬国連大会を開催できたことはとても幸運なことだと思っております。大会開催を可能にしていただいた事務局の先生方、スポンサーの皆様、及び実行委員の生徒の皆さんにお礼申し上げます。

はじめに、開会式の際にも申し上げましたが、模擬国連では最終的に楽しむことがとても重要だと私は考えています。他の人と話すことが楽しい、取り上げている問題について話し合うことが楽しい、あまり知らない国を担当することで新たな視点を獲得することが楽しい、などその方法は枚挙に暇がありませんが、参加していただいた皆様が自身の楽しみ方を見つけていただけたならばとても嬉しく思います。また、今回参加していただいた皆様に考えていただきたいことは、根本に立ち返り、なぜ模擬国連に私たちは参加しているのかということです。きっかけは様々あると思いますが、何度も会議に参加している理由は何でしょうか？この目的をしっかりと考えることによって模擬国連に主体性をもって参加できると思います。そして、世界中の様々な問題に触れる機会である模擬国連に主体的に参加するということは、模擬国連の中だけではなくその後、そこで得た気づきや学びをもとに実際に行動に移してみるということにもつながっていくと考えています。

さて、本来であればここで来年の大会の振興を願い、挨拶とさせていただくところですが、来年度のAJEMUNが開催できるのか、どのような開催形式になるのか、正直に言うとわからない状況でそれを願うのは少し躊躇われるところがあります。はたまた明日の世の中がどうなるか今は誰にも予想の付かないご時世です。ですが、逆に捉えてみれば、今人々は“変化”に寛容になっています。模擬国連に参加されている皆さんはそれぞれ目的意識の強い方々だと感じています。ぜひ、模擬国連の内外を問わず、この“変化”を起こしやすい状況を生かして様々な場面でより良い違いを作っていかれることを願っております。

大会セクションリーダーより

フロントセクションリーダー
渋谷教育学園幕張高等学校　江原 颯希

第4回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)のフロントセクションリーダーを務めました、渋谷教育学園幕張高等学校2年の江原颯希と申します。

今大会は例年と大きく異なるオンライン会議となり、フロントも自宅から参加する異例の事態でしたが、無事終了となり嬉しく思います。

過去の会議と大きく異なる点は会議形式だけではありません。今回議題解説書(BG)はフロントが作成しました。顔の合わせたことのない仲間でBGを作成するにあたって、コミュニケーションが不可欠でした。限られた時間の中、進捗状況を報告し、作成期限を確認し合ってスムーズに作業する必要がありました。業務的連絡ではありましたが、このやり取りを通じてフロントメンバー同士の距離感が縮まったのではないかと感じています。結果として、会議当日は相談し合いながら会議を運営することができました。

また、議題を決める段階で対立する意見もありましたが、建設的な意見交換と批判はこれまでの大使としての活動で養われたものであり、模擬国連活動への熱意ではないのかと感じました。BG作成に限らず、どのような活動でもお互い指摘し合い、カバーし合うことが大切だと実感させる経験でした。BG作成をはじめ、積極的に運営に携わるフロントメンバーが多く、オンライン会議の運営経験のあるフロントメンバーもおり、頼もしかったです。仲間に恵まれ、より良い会議をつくることができたと感じています。改めて、ありがとうございました。

AJEMUNは練習会議では見られない顔も多く、スタイルの多様性が特徴だと思います。意見のまとめ方や会議行動など、新たな理想とする大使の要素を発見していただけたでしょうか。大使が顔を合わせて会議ができる日が再来することを願っていますが、オンライン会議が続きそうです。画面共有や共同編集の効果的な使い方は今後の模擬国連活動に反映できる点があるかもしれません。今大会を通じてできた新しい目標に向かい、反省点をこれからの活動にいかせていただけたら幸いです。

私が初めて模擬国連を目にしたのは第 2 回大会を見学した時でした。そこで見たかっこいい先輩方の背中を追ってこれまで大使として会議に参加してきました。そのような思い出のある AJEMUN でフロントリーダーとなれたことを光栄に思っています。憧れている先輩方は引退され、後輩の顔が増え、今大会は世代交代を実感する感慨深いものでした。

今大会に参加していただいた高校生、顧問の先生各位、後援・助成・協賛企業の方々、実行委員と事務局の皆様に深く御礼申し上げます。

運営受付セクションリーダー

浅野高等学校　天野 晴斗

第 4 回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)の運営受付セクションリーダーを務めさせていただきました、浅野高等学校 2 年の天野晴斗と申します。

運営受付セクションでは、大会の運営役として、多岐にわたる業務を行ってきました。参加者の議場割り、大会ポスター、プログラムの作成、開会式、閉会式の運営、交流会の司会進行など、4 人のメンバーで協力し合って行ってきました。特性上、大会本部や他のセクションと連携をとりながら作業を進めることが多かったので、最初の頃はどのように進めていくのか、どこまで自分たちの中で話を進めていいのかなど難しい点も多かったのですが、次第に要領を把握し、スムーズに作業を進められるようになりました。そのような経験も含めて、今大会の実行委員を務めたことで自分自身大いに成長することができたと感じています。

今大会は AJEMUN としては初のオンライン開催になりましたが、皆さんはどうだったでしょうか。これまでオフラインの会議に参加したことがある人は、かなり変化を感じたのではないかと思います。しかし、オンライン会議にはそれ特有のメリットがあると思います。例えば、文書共有が容易になり、より多くの国がグループ内、あるいは他のグループの意見を文言レベルの深い内容まで詳しく知ることができます。また、外国の人や遠くにいる人とも自由にやり取りができるため、将来的にも多大な可能性を秘めています。他にもオンライン会議の良い点は多くあると思います。その利点にどれだけ気づくかは、大使の皆さんがどれだけそれを活用するかに依存すると思います。柔軟な変化が求められる今、ぜひ新しい模擬国連の形を受け入れ、自分の楽しみ方を見つけてみてください。

最後になりますが、今大会は多くの方々の協力がなければ成り立たなかったと感じています。そもそもオンライン開催という選択肢がなければ 1 月であっても今大会は開催できなかったはずです。オンラインという手法を検討し、今大会の開催へ向けて積極的に考えていただいた大会役員の方々、また慣れない大会形式にも関わらず参加を決めていただいた参加者の方々、そして支えてくださったセクションメンバー、実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

情報テクニカルセクションリーダー
渋谷教育学園渋谷高等学校　矢野 貴大

皆さんこんにちは。第4回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)の情報テクニカルセクションのリーダーを務めました、渋谷教育学園渋谷高等学校2年の矢野貴大と申します。

初めてのオンライン開催、そして新設されたセクションということでほぼゼロからのスタートとなった今大会の準備は一筋縄では行きませんでした。そもそもテレビ会議システムは何を使うのか、大使がスムーズに参加できるようにするために何ができるか、当日はどのような形でサポートに当たるべきか。前例のない課題に幾度となくぶつかりましたが、顧問の岡先生や三浦先生、そして何より情報テクニカルのセクションメンバーの皆さんの積極的なサポートによって円滑に進めることができ、大きな問題もなく当日を迎えることができました。会議当日、特に初日は接続できない、音が聞こえない等のトラブル相談が数多く寄せられましたが、効率的に対応にあたるためにセクション内で作業分担をし、大使の皆さんに対しその場その場で求められる最善の方法を提案できました。これもまた顧問の先生方とメンバーの協力なくしては成し得なかったことだと思っています。本当にありがとうございました。

あらゆることがオンライン上で行われた今大会を終えて、このAJEMUNが「高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会」であることを改めて感じさせられました。8月に実行委員が初めて集まってから大会当日までの半年間で、今まで対面で行われてきたこの会議をオンライン上で行うための移行を、先生方のお力をお借りしつつも、実行委員長やフロント・運営受付セクションのメンバーを含めた高校生主体で行えたことは凄いことだと思いますし、同時に自分が実行委員として携われたことをとても光栄に思います。

最後に、このような貴重な経験、そして良い刺激を与えてくれたこのAJEMUNが、今後ともオンライン・対面に関わらず、どのような形であれ続いていくことを切に願っております。

第 4 回大会概要

大会名　：第 4 回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）
開催日時：2021年1月10日（日）・11日（月祝）
開催方法：オンライン（Zoomを使用）
議場方式：ハーバード形式（全日本高校模擬国連大会と同じ方式）
議　題　：人種差別
使用言語：日本語
参加費　：無料
主　催　：全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

大会スケジュール

1 日目：1 月 10 日(日)		2 日目：1 月 11 日(月)	
10:00	接続開始	9:30	接続開始
11:00	開会式	10:00	会議開始
11:30	基調講演　星野俊也先生「模擬国連の意義とあゆみ～緒方貞子さんからの系譜」	10:30	質疑応答終了
		11:30	昼食
		12:00	会議再開
		14:30	DR 提出
12:10	昼食	14:40	休憩
13:00	会議開始 ※途中で 20 分の休憩	15:00	会議再開
		15:40	投票
15:30	WP 提出	16:00	会議終了・閉会式
16:40	会議終了・交流会	17:00	解散

今大会の特徴

運営受付セクションリーダー
浅野高等学校　天野 晴斗

今大会は、参加者がより良い経験を得られるために多くの特徴を有している。これからその特徴について、3つに分けて説明していきたいと思う。

1つ目は、初心者が会議に参加しやすいという点である。模擬国連という活動が広まっている近年、初心者が模擬国連に参加しやすい環境を作ることは極めて重要である。現に今大会の参加者のうち、今回が初めての模擬国連であるという人は4割にも及んだ。そのため、今大会では初心者議場を2つ用意した。そこでは会議の流れについて詳しく説明を行いながら進行することで、会議に取り残されることがないように努めた。また、経験者議場においても、フロントが会議の流れについてサポートを行うことで経験の少ない大使も会議に積極的に参加できることを可能にした。さらに、今大会は使用言語を日本語とした。模擬国連においては一般に公式討議やWP、DR文章は英語で行うことが多い。これにより参加をためらってしまう参加者も多いのではないかと思われるため、英語を使わない会議を実現した。これは初心者が会議に参加しやすくなっただけでなく、経験者にとっても、普段使い慣れている日本語を使用することでより深い議論を可能にし、より効率的な議論ができたのではないかと思う。

2つ目は、大使の相互評価による賞を設定したという点である。模擬国連とは本来、決議案に向けて交渉を重ね、自国の国益を満たす、より良い社会へ向けた決議案を可決することを目的としている。そのため賞が設定されるというのはおかしいと感じる人もいると思う。しかし賞を設定することにより会議に対して貢献した人物を評価する機会が設けられる。模擬国連は部活動として行っている人も多いことから、賞を設定する意義は大いにあるのではないかと思う。この際フロントが全て評価対象を決めるのではなく、あくまで参加者の評価を重視することにより、正当な評価を実現した。

3つ目は、高校生が主体的に大会を運営しているという点である。今大会の開催にあたり、事前に全国から実行委員を募集した。様々な学校の生徒と協力して大会へ向けて準備を進めるという点で他の大会とは異なる難しさがある。その中で、フロントセクションは円滑な会議運営に向けた綿密な計画を立て当日のフロント業務を行い、運営受付セクションは開会式・閉会式の準備、大会プログラムの作成や投票の集計などの作業を行い、情報テクニカルセクションは今大会の最も重要な点であるオンライン開催に関する課題を順に解決していき、当日のトラブルにも迅速に対応した。実行委員と顧問とが連携することにより、高校生ならではのアイデアや実行力を取り入れることができた。

これらが今大会に関する最も大きな特徴であろう。ここからは、参加者アンケートにも多く書かれていた点について説明、講評を記していく。

【今大会の特徴—大会スケジュールに関してー】

参加者アンケートを見ていると、今会議は決議案提出までの時間が短かったという声がいくつか挙げられていた。これから、なぜ会議の時間を十分に確保できなかったかという点について、2つに分けて説明していく。

1つ目は、今大会として初のオンライン開催を行ったからである。今大会以前にもオンラインでの模擬国連は何度か開催されていたが、今大会は今までにない規模でのオンライン開催である上に、異なる学校の実行委員とともに会議を開催するため、より時程に余裕を持たせる必要があった。そのためZoomの開始とともにすぐ接続をしていただいた大使の方には待ち時間が多く発生してしまった。今後オンライン会議が開催される際には、トラブルへの対処を行う時間を設けながらも、これらの待ち時間をいかに減らすかが課題であるだろう。

2つ目は、会議以外の経験も参加者に提供したいと考えたからである。今大会は、1日目の開会式の後に、星野俊也先生による基調講演を行った。星野先生はプロフィールにもある通り、国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表として実際の国連の活動に積極的に関与してきた。基調講演では国連の会議の様子、詳しい実情を多く話していただき、とても貴重なものであったと思う。実際に国連に勤めていた方から模擬国連について評価をされると、改めて私たちが模擬国連に参加する意義について考えさせられると思う。このような経験をしてもらいたいと思い、今大会の初めに基調講演を設定した。なお、基調講演は大会HPに公開してある。もう一度見たいという方はぜひ見ていただきたい。

このような理由により、今大会は上記のスケジュールで実施された。今大会に参加し、新しい発見や経験をすることができたなら幸いである。

【今大会の特徴—オンライン開催に関してー】

これまでのAJEMUNにはなかった第4回AJEMUNの最大の特徴は、オンライン開催という点である。この人数の規模でのオンラインによる模擬国連は初の試みであったため、どのようなことが起こり、結果としてどのような利点、欠点が生じたのかについて2つずつ記していきたいと思う。

利点の1つ目は、開催場所に行く必要がなくなったという点である。これは今大会の例年の開催地である東京から遠い参加者にとっては、極めて大きな利点である。これにより、大会により気軽に参加できるようになったのである。現にオンライン大会であるから今大会への参加を決めた、という声もいくつか見られた。これは全国の幅広い高校生に対し模擬国連の活動を知ってもらいたいという今大会のコンセプトにも合致する。

利点の2つ目は、会議の内容に関するものである。今大会では、Zoomの画面で話す以外に他の大使と交渉をする手段として、Googleドキュメントの使用を可能にした。これはなかなか画期的であったのではないだろうか。Googleドキュメントは文字媒体で多くの情報を載せることができる上に、共同編集も可能である。そのため、現地で行う会議では把握が難しい、細かい議論の内容や決議文の詳細を各々のペースで知ることができるため、本当にこのグループが自国の国益を満たしているかを確認したり、コンバインに向けた交渉でどの点を重点的に話し合うべきかを調べたりすることができる。PCを用いた新しい交渉の手段は、大使のアイデア次第ではまだまだ活用の余地があるように思われる。

このように利点の大きいオンライン開催であるが、いくつか欠点も存在する。欠点の1つ目は、発言の対象が限られるという点である。オンラインの音声には、距離や方向による変化がなく、誰が話しても同じ音の大きさで聞こえる。つまり、一度に複数人が話した際、どの音も聞こえないのである。そのため必然的に誰か一人しか話せず、たいていの場合話すことのできる人は固定化される。いかに多くの場面で全員に話す機会を設けるかがオンライン開催の大きな課題であろう。また、Zoomでは画面共有をすることのできる人は1人のみである。そのため画面共有を誰がするかによってグループの方向性、主導権が決まりかねない状況であったと思う。

欠点の2つ目は、少人数間でのやりとりが難しい点である。今大会では個人に対する連絡手段がチャットであったため、複数人にメッセージを送るのが難しかったと思う。ただこれは一方で、リーダー国同士で内々に行われる交渉を行いづらくしたという点では評価されるのかもしれない。

以上がAJEMUN史上初のオンライン開催に関する講評である。オンラインでしか大会を行うことができない状況に置かれたからこそ、オンラインの利点に気づき、効果的な活用方法について考えることができたのではないだろうか。

賞受賞者一覧（経験者議場）

【A議場】

最優秀大使賞

New Zealand	浅野中学・高等学校	佐野 智亮・坂本 優樹

優秀大使賞

Myanmar	海城中学高等学校	池田 隼・中村 謙太
Pakistan	海城中学高等学校	及川 遼也・島村 昂寿
United Kingdom	大妻高等学校	清原 萌香・阿野 咲

実行委員特別賞

India	渋谷教育学園幕張高等学校	周 文佳・平澤 綾

【B議場】

最優秀大使賞

Rwanda	渋谷教育学園幕張高等学校	古土井 悠・岩切 龍太

優秀大使賞

Australia	渋谷教育学園渋谷高等学校	岡田 玲衣奈・飯島 紗英
Nigeria	大谷高等学校	岡野 暖・堀井 美久子
United States	小林聖心女子学院高等学校	岡本 美里・古山 華梨

実行委員特別賞

South Africa	聖心女子学院高等科	鈴木 歌恋・永田 理華・河島 玲奈

【C議場】

最優秀大使賞

Brazil	海陽中等教育学校	中島 大雅・小澤 秀周

優秀大使賞

DPR Korea	海城中学高等学校	市川 義之助・加悦 成晃
South Africa	桐蔭学園高等学校	村石 るい・後藤 奏子・鈴木 里奈
Viet Nam	渋谷教育学園渋谷高等学校	栗林 孝匠・寺井 龍吾

実行委員特別賞

United States	頌栄女子学院高等学校	田中 あかね・光岡 瞳

賞受賞者一覧（初心者議場）

【D議場】

最優秀大使賞

South Africa	西大和学園高等学校	園田 敬都・定岡 慶次朗

優秀大使賞

Greece	西大和学園高等学校	山口 宏陽・小野 修太郎
New Zealand	開智中学高等学校	坂野 なな・日比野 匠
Poland	東京女学館高等学校	長谷川 理子・吉越 万莉

実行委員特別賞

Rwanda	東京学芸大学附属国際中等教育学校	及川 太滝・笹尾 智也

【E議場】

最優秀大使賞

New Zealand	昭和女子大学附属昭和高等学校	石川 響・塩谷 日菜

優秀大使賞

China	久留米大学附設高等学校	重松 佑佳・鈴木 なの
DPR Korea	神奈川県立横浜国際高等学校	吉岡 美月・松居 聖
Republic of Korea	西大和学園高等学校	西裏 咲希・峰 大和
Senegal	渋谷教育学園幕張高等学校	浜中 拓夢・今村 颯来・水谷 泰我

実行委員特別賞

France	西大和学園高等学校	万代 千尋・滝本 真央

各議場講評（A 議場）

【総評】

経験者会場とあって、オンラインならではのトラブルにも柔軟に対応していて、オンラインでの模擬国連に慣れている大使が多数見受けられました。また、何かあった時に大使同士で注意をしていたり、困ったことがあったら大使同士で解決し、協力する姿が見受けられました。さらに、スピーチやモデの提案などのレベルが高く、さすが経験者会場だなと感心させられました。しかし、ブレイクアウトルームに別れたあとは特定の大使しか発言しておらず、また特定の大使のみで会話が盛り上がり、他の大使が置いてけぼりになるという状況が何度かありました。リーダー国とスポンサー国との関係に上下はありません。あくまでも対等な関係です。リーダー国だけで話し合いを進めるのではなく、あまり発言していない国にも積極的に声を掛けるなどして、グループ全体で話し合いを進めるとより良い会議になったと思います。また、他の大使も受け身になるのではなく、積極的に発言していくという姿勢を持つことも大切です。沢山場数を踏んでいるのが裏目に出てしまったのか、一国の大使として国益を考えながら政策を考えるというよりは、賞を取るためのポイント稼ぎを淡々としているように見受けられました。初心に戻って、あのドキドキとした緊張感や一国の大使になりきって会議を進めていくということを意識して模擬国連に挑んでください。

【フロントより】

今会議では、多くの大使が印象深いスピーチや的確なモデの発言を行うなど、経験者ならではの準備や創意工夫が見られた場面が多くありました。一方、グループに分かれてからの議論の進め方には改善の余地があると思いましたので 4 点指摘させていただきます。

１つ目は、特定の大使だけが発言し続けており、グループの内の多くの大使が議論に参加できていなかった点です。模擬国連会議においてグループを形成して議論するのは、1 ヶ国では考えつかなかった視点から議題と向き合い、1ヶ国ではなく複数国で意見を形成することで、より強いメッセージを国際社会に発信するためです。この事を意識してグループの大使全員を巻き込んで議論を進展させていってほしいです。

２点目は明確な目的意識を持つことです。そのグループは何を目的として集まり、今会議で何を達成したいのかということをグループ内で共有できていなかったように思います。そのため、コンバインの際にグループ同士が「グループで何をしたのか」を報告するに止まり、文言の合体作業に追われていました。互いのグループの方向性や今会議の目標を明確にしてから文言交渉を行うことで、コンバインがよりスムーズになると思います。

３つ目は計画性です。WPやDR提出時刻から逆算して、何時までに何を終わらせるかを決めていなかったことから、提出時刻数分前にグループ全体が焦ってミスを多発し、DR非

受理となったグループ、間違ったDRを提出してしまったグループがありました。時間がないからこそ積極的に声かけして計画性を持つことが大切だと思われます。

最後に、論点に関連のない項目を議論している大使が多く見受けられた点です。今会議の意義は、人種差別の問題を幅広く議論することにあるのではなく、3つの限られた論点の中で人種差別撤廃の方策を模索することにあると思います。この点を意識して制限された論点の中で議論を活発化していってほしいです。

以上の4点以外にも、大使の方々が各々で学んだことは沢山あると思います。今回の会議で得た仲間、素晴らしい経験を今後に活かしていってくださると幸いです。

模擬国連に参加する意味は人によって違うかと思います。しかし、根底に存在する、コミュニケーションをとろうとする意欲や、未解決の問題に対してそれぞれが向き合い、答えを導きだそうとする姿勢は欠いてはならないものです。今回の議場で多くの大使は、リサーチはよく出来ていたために解決への道筋は見えていたものの、リーダー国になりたいといった浅はかな気持ちや、WP提出などといった表彰のチェックポイントの通過に囚われてしまっていました。模擬国連への参加経験が多いから、また、オンラインという特殊な議場だからこそ起こってしまったのでしょう。大使の皆さんにはもう一度、模擬国連に参加している意味を思い出してほしいです。

【最優秀大使コメント】

New Zealand大使　浅野高等学校　佐野 智亮

僕は何のために模擬国連をやっているのだろう。そう思うことが時々ある。

国際大会に出てみたいという淡い期待と共に始めた模擬国連。しかし初会議での発言回数はたった2回で、その後も明確な目標はなく、ただ作業的に会議に参加していた。

そんな中で一つだけくすぶっていた思いがあった。それは、自分ならもっと良い会議を作り上げることができるという自信だった。各国の政策が十分吟味されずに、論理性や実効性に欠ける決議案が採択される会議。議題に関する知識や過去の成果、各国の利害関係が系統的に整理されないまま、上滑りした議論が展開される会議。自分なら変えられる、そう強く思った。

しかし依然として、国際大会という曖昧な目標を除いて会議に参加する動機はなく、楽しむことなど到底できていなかった。それを変えるきっかけが全日本高校模擬国連大会だった。当時は国際大会出場という目標しかなく、自分たちが活躍することしか頭になかった。当然、楽しめていたのか自分でもわからないような状態だった。そして、会議を振り返れば振り返るほど、協力することの重要さに気付かされた。

参加者全員で協力して自分一人ではできないことを成し遂げよう、その目標と共に臨んだのが今回の会議だった。人種差別という議題は各国の方針が大まかに一致しており、コンセンサスは実現できると考えていた。そのため、最終的には一つのグループにまとまることを念頭に三つのグループに分かれることを提案した。しかし、結果的にグループは五つにな

ってしまった。それでも、ニュージーランドという多様性を尊重する国家の代表として議論をリードすることに努めた。

その時、全ての大使が議論に参加するために工夫したことの一つが「視覚化」である。

各国の主張の共通点、相違点を洗い出すために表を作成し、円滑なコンバイン作業のために文書にマーカーを引いた。また、ドキュメントのコメント機能を使用して文言に対する指摘を行った。そうすることで、意見の共有や説明にかける時間を削減し、より議論を深めようと試みた。そのおかげで、安定したグループ運営ができたものの、五つのグループを一つにまとめることができず、提出された二つの決議案をコンセンサスで可決することができなかったのは非常に残念である。グルーピングを提案する際の説得力や、コンバインを成功させる交渉力がまだ不足していると実感した。

その一方で、今会議で得た最も大きいものは模擬国連を楽しめたことだろう。模擬国連は高校生が平和を実現するものではなく、平和を実現することの難しさを学ぶものだと僕は考えている。だからこそ、意見を主張し合い、交渉によって妥協点を探り、参加者全員で真剣に国際問題と向き合うところに模擬国連の楽しさがあると思う。そして、その楽しさこそが冒頭の問いに対する現時点での回答だと思っている。

最後に、今会議に携わってくださったフロントの方々、会議で協力してくださった大使の皆様、そして何よりもペアの坂本に感謝したい。

New Zealand 大使　浅野高等学校　坂本 優樹

A 議場でニュージーランド大使を務めた浅野高等学校 1 年の坂本優樹です。第 4 回全国高校教育模擬国連大会を開催してくださった方々、同じ議場で議論を交わした大使の方々、本当にありがとうございました。

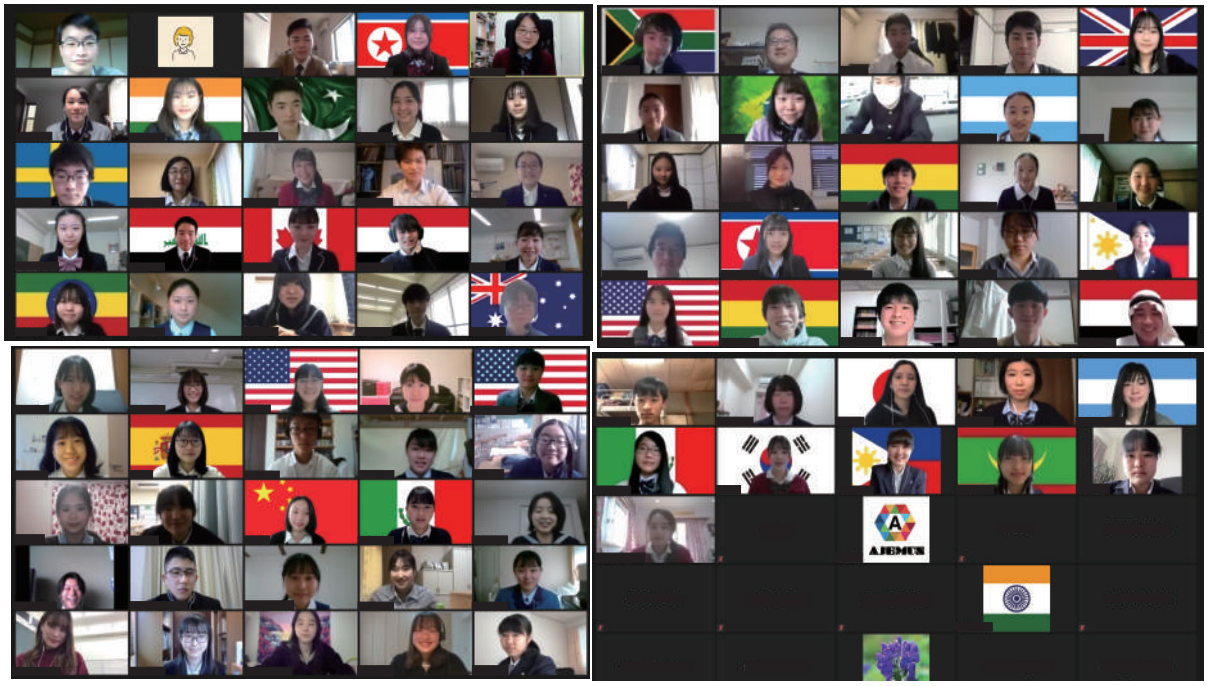
僕が模擬国連に取り組み始めたのは新型コロナウイルスの感染が拡大していた 2020 年 8 月からでした。そのため、今回の第 4 回 AJEMUN はもちろん、僕が経験した計 4 回の会議は全てオンライン上で行われたものでした。

オンライン会議への参加方法は非常に簡単です。Zoom Meeting ID とパスワードを入力するだけです。しかし、その簡単な作業を経て入室した部屋には、100 人以上の人達が会議の開始をじっと待っているという緊張感のある空気が流れているのを画面越しに感じました。その空気に驚かされはしたものの、会議部屋にいた全ての人が「人種差別」という 1 つの議題について考えてきたのだと思い、会議がより一層楽しみになりました。

「人種差別」という議題は僕にとってとても身近なものでした。僕が通っていた小学校は、一般的な公立の小学校であったにもかかわらず、地域上の特性から様々な国、人種の人々が集まっているという少し特殊な側面を持った学校でした。6 年間その環境で過ごして感じた「多様性」、あるいは感じなかった「差別意識」など自分の経験を活かした政策を提案したいと思っていました。

もし、「人種差別」という議題についてただ話し合うだけの会議であれば僕の思考はそこで止まっていたかもしれません。しかし、この会議は「模擬国連」という、各国を代表する大使に扮して与えられた議題について議論を行う場です。ニュージーランド大使という役割を与えられた僕は、日本人の僕の視点のみから政策の提案を行うわけにはいきません。それは、模擬国連の難しさの 1 つかもしれませんが、同時に模擬国連の面白さの 1 つだとも思います。僕たちは普段日本で暮らしていて「〇〇という国からみたら人種差別に対してどのような取り組みを行うべきだろうか」などと考える機会はめったにありません。模擬国連に参加したからこそ、ニュージーランドという国について調べ、ニュージーランドの立場から政策を提案するに至ったのです。そのようにいくつもの会議を経験すると、様々な国の視点から国際問題を捉えられるようになると思います。

僕は、今までカナダ・インド・オランダ・ニュージーランドという 4 ヶ国の大使を務めてきました。今回の会議でもカナダ大使の名前が呼ばれると返事をしそうになってしまいました。また、ニュースを見ていたり、本を読んだりしていても自分が務めた国の名前があるとつい反応をしてしまいます。おそらく「模擬コッカー」の多くはこの経験をしたことがあるでしょう。そして、このように様々な視点を得ることができるのは模擬コッカーの特権であると思います。一方で、模擬コッカーがこのような特権を享受できるのは模擬国連という会議という場を与えてくれた多くの方々のおかげです。僕たちの視野を広げてくれた模擬国連に、そして今大会を開催してくれた方々に改めて感謝を表明したいと思います。ありがとうございました。



各議場講評（B 議場）

【総評】

B議場は経験者議場なのもありますが、とてもスムーズに話し合いが行われていました。特に動議の募集時には、動議が他国と被っていたら、自らその旨をフロントに伝え、投票がスムーズに行われるようにしたり、フロント側に言われなくても提案の目的、内容、時間を簡潔に述べている大使がほとんどでした。これらを行うのは当たり前なことかと思われるかもしれませんが、離れているペアとコミュニケーションを取り、他国とメモを回し、更に会議の進行状況も確認しながらこの作業を行うのは、経験者でも至難の技だったかと思います。また、オンラインならではのトラブルもありましたが、大使同士で注意し合っている様子が多数見受けられました。

アンモデ時のブレイクアウトルームは、論点別に分かれることになりましたが、どの国もルームへの移動が素早く、また分かれてからの会議進行がスムーズだったので、多くの大使が各々の国の内政や外政状況を見極め、たくさんの準備をしてきたように見受けられました。また、ペア間での役割分担が上手な大使が多く、積極的に他のルームの情報も仕入れながら会議をしていたため、文言作成がスムーズに行われていました。ペア間だけでなく、会場全体のチームワークもとても素晴らしかったと思います。一つアドバイスをするとしたら、内政状況や外交関係が似ている国をピックアップして、簡単な情報を入れておくと、よりレベルの高い会議になったのではないかと思います。

【フロントより】

オンライン開催で時間がないにも関わらず、稀に見るスムーズな会議でした。最終的に全ての国がスポンサーとなった1つのDRが提出され、無事採択に至りました。なぜそのような会議に至ったのか、その背景を2つ説明します。

1つ目は、最初のグルーピングで論点別で別れたことです。これによって議論する範囲が明確になり、議論が長引くことを防ぎました。更に3つのグループが全て違うトピックを話し合うのでグループごとの意見の衝突が少なく済みます。そもそもその論点に関心のある大使が集まって納得できるように話すので議論もより深くなることも期待できました。この進め方は人種差別という対立点の少ない議題だから出来ることでした。

2つ目は、全体的な大使のレベルが高かったことです。経験者議場なだけあって、多くの大使がきちんと自分の意見と会議のビジョンを持って会議に臨んでいたように思えます。その現れとして、文言を準備していたことが挙げられます。こうすることでアイデアから文言化の流れを省略できますし、文言をベースにすることで議事進行も分かりやすくなります。更に、各グループの内政を担当する大使と外交を担当する大使との連携、各グループの

リーダー国同士の連携がスムーズでした。

フロントの感想としては、フロントがいらないくらい議場がまとまって動いており、やりやすい会議でした。この議場でリーダー国を担当した大使の皆さんは相当満足のいく出来だったのではないでしょうか。

しかし、スムーズな会議は見方を変えれば味がしない会議とも言えるのかなと思いました。ここから話すことは人によっても意見が分かれることなので、鵜呑みにはしないで頂きたいのですが是非ご一読ください。

僕は今まで沢山の会議に参加しましたが、鮮明に記憶に残っている会議には一つの共通点があります。それは、めちゃくちゃ色々なことを考えた上でやったことが失敗したときです。賞を獲ったどんな会議よりもスポンサーなのにDRにNoと言った会議、みんながコンセンサスを目指す中みんなの国益が軽視されていることをモデで突きつけた会議などなど。やはり傍から見たら相当迷惑な大使で、僕自身も今後そのようなことが起こらないように気をつけてきました。でも後悔はありません。

人の輪を乱すくらいなら、と自分のやりたいこと、言いたいことを引っ込めてしまう大使の皆さん、本当にそれで良いのでしょうか？もちろん、自分のことばかり考えて人の意見に耳を傾けない大使はよくありません。でも、このまま国に帰ったら国民から卵を投げつけられるなと思ったのなら言うべきでしょう。僕はそこをボーダーとしています。所詮自分のことなどあまり他の大使は気にしていないものです。自分の好きなこと、信念を曲げるのであれば、あなたが大使である意味はないと僕は思います。その国の代表としてあなたはどこまで楽しむことが出来ますか？

【最優秀大使コメント】

Rwanda大使　渋谷教育学園幕張高等学校　古土井 悠

僕はずっと恵まれた環境で模擬国連をやってきました。学校には部活があり、どんな会議でも必ず輝いていて、常に憧れであった先輩たち、模擬国連界では顔が広く、常に模擬国連に触れさせてくれた顧問の先生の存在、理想の環境であったと思います。まずは、その環境を作ってくださった先輩方、先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

では改めて、B議場において、ルワンダ大使として最優秀大使賞を頂きました、渋谷幕張高校2年の古土井悠です。今年は、従来の対面形式ではなく、オンライン上の開催であったため、どのような会議になるのかと不安でしたが、オンラインだからこその魅力もあるのかな、と感じた会議でした。でもやはり、大きな会場でたくさんの人とする会議が恋しくなりました。

今回の大会を通して、模擬国連の会議で大使は何を目指すべきなのか、もう一度考えました。もちろん正解はありませんが、一度深く考えてみるといいと思います。よく会議中に、実際の国際会議でこんなことがあり得るのか、というような場面は多々あると思います(DPRK大使が自分のことを北朝鮮と呼んだり、国益をまったく反映できないDRを賛成した

りなど)。また、会議進行の中で強引にリーダーになろうとしたり、相手への敬意を忘れている言動をとったりなど、本当に大使、つまりその国の代表として会議に参加しているのか、疑問に思ったことが今までにたくさんあります。個人の模擬国連との向き合い方について、口を出すことはできませんが、でももう一度、模擬国連に真摯に向き合ってみてほしいな、と思っています。楽しい模擬国連活動を目指すのであれば、なおさらお勧めします。

ここからは、メッセージを書かせてください。

同世代の皆さんへ。自分が成長できたのは皆さんと常に切磋琢磨しあえたからです。今まで本当にありがとうございました。大学生になって、次は直接会って、バチバチしましょう！

経験者の後輩の皆さんへ。僕は中1からずっと模擬国連をやっていたので、その分これまでたくさんの大使を見てきました。リーダーとして、議場全体をまとめ、カリスマ性を発揮する大使。自国の国益を最大限反映させるために尽力する大使。スピーチで魅せる大使。いろんなタイプの素晴らしい大使がいました。彼らは共通して、「何か」を極めていました。これからの模擬国連を担うみなさんには、とことん自分の理想を追求してもらいたいです。自分が極めたい「何か」をひたすら目指してみてください。これからもがんばってください！応援しています！！

今回初めて模擬国連に触れた、という皆さんへ。初めての会議でなにか達成感を得られたのであれば、それは素晴らしいことです。自信を持ってください。終わった後、何もできなかったなぁ、と言う人もいると思います。でも、たった一回じゃ何も出来ないのが普通だと思います。僕は10回会議に参加しても何も出来ませんでした。だから、落ち込まずに、もっと経験を積んでみるのもいいかもしれません。模擬国連は才能よりも努力が勝る活動だと思います。もし、今回の大会で少しでも模擬国連に興味を持ったのであれば、ぜひ今後も模擬国連会議に参加してみてください。

最後に、大会関係者の皆様。今年もAJEMUNを開催してくださり、本当にありがとうございました。

Rwanda大使　渋谷教育学園幕張高等学校　岩切 龍太

今回の議場では、ルワンダ大使として「人種差別」の議題に取り組みました。オンラインでの開催となりましたが､慣れないシステムに慌てることなく２日間会議が進行したことは、議長を初めフロントの皆さんと、大使の皆さんの理解のお陰であると実感しています。

ルワンダという国は、「人種差別」という議題に対して、繊細なまでに気を配っています。だからと言って、ヘイトスピーチへの規制を勧めるＥＵ諸国と考えが同じかというと、そういうわけでもありません。ルワンダは、アフリカ諸国の中でも、人種問題に関してかなり特筆すべき立場を取っています。史上類を見ない程の残虐なジェノサイドを経験しているため、ヘイトスピーチへの規制や、人種差別をなくす政策の類はまだ理解できます。しかし、ジェノサイドによる国内の混乱状態をまとめあげた現在の政府は、かなり独裁色が強く、こ

れらの政策の過剰さは、ＥＵ諸国も驚くほどのものでしょう。例えば、国内で「民族」について言及すると罪に問われるため、子供たちは自分たちの民族が何なのか知らないことも多いようです。このように特徴の強い国であるため、会議でも積極的に他大使に私たちの主張を伝えることができました。そういう意味で、ルワンダという国で、僕の模擬国連人生の最後の会議を締めくくれたことは、とても幸せに感じています。

また、今回は最後の会議でありながら、学べたことは非常に多かったと実感しています。その最たるものは、会議当日をシミュレーションしておくことの大事さを学べたことです。1日目は僕たちの思うように行動できなかった所が多く、アメリカ大使さんが最初のモデで活躍されていたり、ニュージーランド大使さんが積極的な外交活動をされていたりしたので、それについていけてなかったのが、正直な所でした。しかし、1日目の夜にペアと話し合って、次の日の会議行動をしっかりとイメージトレーニングして、詳細にシミュレーションできたことは、2日目の会議での僕たちの自信につながったと感じています。なぜ最後の会議になって気づいたのかと後悔している所もありますが、こうして運良く、大使の皆さんから私たちの会議行動が評価されたことは非常に幸せに感じています。

今回のＡＪＥＭＵＮでは、学べたことも多かったのですが、それ以上に、今までで一番成功した会議だという印象が残った大会でした。最初 Zoom に入った時、関西の学校の方々や、女子校の生徒の方々が多く身構えていましたが、いざ会議が始まると、皆さんとてもフレンドリーに接してくださったことがとても嬉しかった思い出です。このように、Ｂ議場の雰囲気が終始とても和やかであったのが、今回の会議が成功した理由であると実感しています。Ｂ議場の大使の皆さん、そしてフロントの皆さん、それから AJEMUN 運営の方々、各学校の顧問の先生方、本当にありがとうございました。

各議場講評（C 議場）

【総評】

今回の会議ではモデを最初にとっていたが、内容が具体的すぎて、自国の主張に偏っていたケースが目立った。モデは全大使に意見を伝える場であるので、もう少し抽象的な発言や、会議状況に対する投げかけをした方が良かったのではないかと感じた。

最初のアンモデの際に、グループを論点ごとに分けていたため、役割分担が上手かったように感じた。また、少人数のグループに分かれて積極的に内容を詰め、その後に大人数のグループに入って話を進めていたので、スムーズだったと思う。内政と外交の分担が出来ていない大使も見受けられたが、リーダー国がうまく要点をまとめ各国に丁寧な説明をしていたため、各国の国益は守れていたように思われる。WPやDRの内容を提出時間の直前まで詰めていたため見ていて慌ただしい場面もあったが、論点ごとに主文を作り、後でコンバインをしていくやり方を取ったことで、より多くの情報を入れたものを提出することができていたと感じた。

DRの最終確認の際には、疑問に思った主文の内容などを積極的に質問する大使がいた一方、パートナーで同じブレイクアウトルームにいて、同じ話を聞いている大使も多かったように見受けられた。自国の利益を本当に守れているかどうかを改めて確認するためにも、最後まで様々な場所から情報を集めるべきだと感じた。

この議場は特に内容を細部まで詰めるための努力を惜しまなかったと思う。自国の利益を守るために自分から行動することはとても大事なことだと感じた。

【フロントより】

会議前にNPを見たときは自分が「担当国の政府の代表である」という意識があまりにも欠けていた大使がいて心配になりました。例えば、自国政府が人種差別をしていることを書いている人がいて非常に驚きました。これを受けて議長から会議前に注意を促したことである程度の意識を持つようになったと感じます。中には担当国の内情をしっかりとまとめられているNPもあり、若干のレベル差が開いた会議だったと思います。ただNPに関しては内容に差はありましたが、デザインなどにこだわっている大使が多く大会にかける強い意志を感じました。

また、PPP提出の段階からリサーチの量と質に差が開いていたと感じております。大使によっては本番の会議行動が得意な場合もあると思いますが、ある程度のリサーチをしておくとより良くなると思います。

会議当日は大使の主体性が出たと感じました。フロントからグループ分けの提案やブレイクアウトルームの割り振りをしなくても短時間の着席アンモデを利用したスムーズなグ

ルーピングをしてくれました。また、DR提出前以外の議論ではグループのリーダー的大使の数名がグループをまとめて話を進めるだけでなく、会議中盤までは多くの大使が主張をはっきりと発することができていたのは良い点だと感じています。しかし後半になるにつれてリーダーが半ば強権的に会議を引っ張っているという印象が強まりました。グループが大きいほど各国の主張を述べる場が少なる傾向があり、少人数のグループは残念ながらスポンサーが足りず非受理となりましたが、すべての参加国の意見のまとまったWPを作っていたためコンバイン後に主張する内容の質が高かったと感じています。

しかし、すでに国連で定義づけられたものに再度定義をつけるなど、全体的にリサーチが不足していたように感じました。1日目はWPが3つ提出され2つ受理されました。しかしながら大幅な体裁ミス(国のアルファベット順、国名、文末の；、動詞、スポンサー不足などのミス)が相次ぎ、DRで修正していない文言もあったのでもう少し注意してほしかったです。2日目はコンバインをして1つのDRになったことは評価できますが、「本当にこれに批准してよいのか？」と思うものもあり、もう少し担当国の内情も知っておいてほしかったです。さらに、オンライン上で行う会議ということもあり、外交が強引な大使が多かったです。話している中で飛び込んでいきなり話し始めたりするのはフロントとして指摘するべきだったと反省しています。

C議場の大使の皆様にはたくさんのご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。最後になりましたが今大会の開催に向けて尽力してくださった先生方、協賛各社の方々、実行委員の皆様そして大会に参加してくださった大使の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。二日間お疲れさまでした。

【最優秀大使コメント】

Brazil大使　海陽中等教育学校　小澤 秀周

今回、ブラジル大使として最優秀大使賞をいただきました、海陽学園4年の小澤秀周です。まずは前例がない超大規模オンライン会議の中、円滑に議事を進めてくださったフロントの方々に心より感謝申し上げます。また、C議場に参加されていた全ての方々に感謝するとともに、一緒の議場で二日間議論できたことを嬉しく思います。

さて、受賞者の感想ということでしたがその前に、私たちが作成したNPを見ていただけましたでしょうか？まだの方は、是非ご覧ください！きっと今まで誰も見たことがないかつ、必ず印象に残るNPだと思います。私はNPを作る時はいつも、皆さんの記憶に残る様なNPを作ろうと心がけています。もし皆さんが他の練習会に参加して、NPを作ろうと思った時に「ブラジル大使が作った面白いNPがあったな、参考にしてみようかな」と思い出していただけたら幸いです。(笑)

今回の会議では、ミュート機能やカメラオフ機能を使用していた方が一定数いたのかなと思います。皆さんの前で話している際に、皆さんのカメラが急に切れたりマイクがオフになったりした時は、「何かまずいことでも言ってしまったかな」と、少し怖かったです。ま

た、最初から最後までミュートだった大使の方もいらっしゃった様に思います。オンラインでの会議開催が主流になり、模擬国連への敷居が低くなった一方で、オンラインの特性上、議場の全員で議論をするということのハードルは上がりました。今、思い返しても提出したDRに全員の意見が反映できていたかと言われると、やや不安が残ります。また、オンラインでの会議はスケジュールも非常にシビアです。実際に対面して連携が取れないため、資料作成も難航します。そんな中でも、しっかりと全員の意見を反映させなければならないのが模擬国連です。しかし、その努力の甲斐あってか最優秀大使賞をいただくことができたので、改めて周りの意見を集約することの大切さを痛感しました。

文字数も残り少ないですが、宣伝をさせてください。4月3、4日に第五回東海大会を行います。かなり大規模なものになっていますので、皆様、ぜひ参加してください！初心者議場と上級者議場に分かれていますので、初心者の方も気兼ねなく参加できると思います。議題は「薬物」を予定しています。春に皆様と会えることを願っています！！

最後に、AJEMUNの二日間は本当に楽しかったです。序盤で４つのグループで分かれ、一時はどうなることかと思いましたが、無事出席国全てがスポンサーのDRを提出することが出来ました。それはひとえに、皆さんが会議中に様々な意見を積極的にくださったり、決議文書の制作を手伝ってくださったりと、会議の成功に向けて尽力してくださったおかげです。本当にありがとうございました！

Brazil大使　海陽中等教育学校　中島 大雅

こんにちは、今回C議場で最優秀大使賞をいただきました、海陽中等教育学校4年の中島大雅と申します。

まずは皆様、2日間の会議、お疲れ様でした。今回はオンライン会議ということもあり、初心者の方だけでなく対面形式での模擬国連を経験してきた方々にとっても良い経験になったのではないでしょうか。

何を隠そう、僕もその一人です。オンライン会議って対面形式とはまったく異なりますよね。そこに難しさを感じる人も多いかもしれません。例えば、グループ内で話せる人も限られてきますし、大きいグループなら尚更です。他にも、外交の動き方が全く違ったり、文書作成のやり方も大きく違ったりするかもしれません。

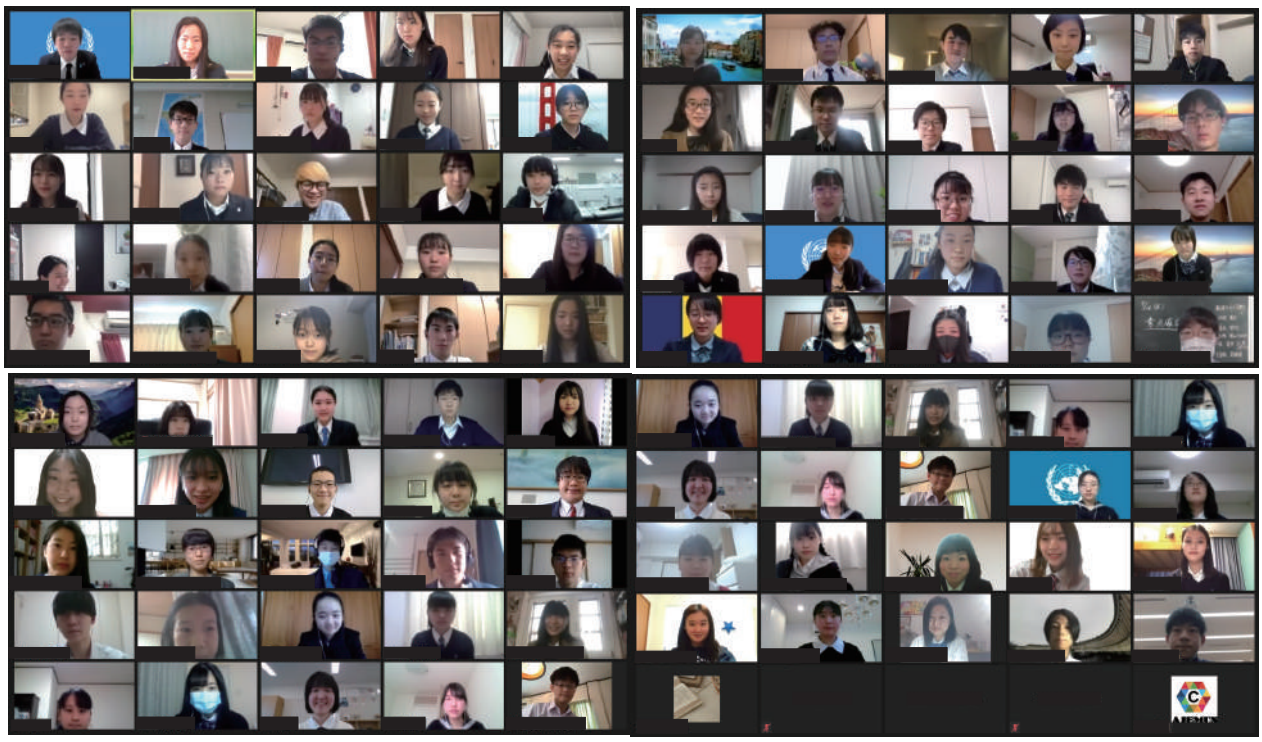
だからこそ、オフライン会議とは違った面白さがあると思います。もしかすると新型コロナウイルスが猛威を振るう中で、仕方なくオンラインの会議に出席している方もいらっしゃるかもしれません。しかしながら、オンラインでの大規模な会議というのは今しか体験できません。そんな貴重な機会を精一杯楽しんでいきましょう！

さて、みなさんは模擬国連に対してどのように取り組んでいますか？模擬国連は日常生活の様々なことにつながる、とても奥が深い競技だと僕は思います。模擬国連で必要な交渉スキルなどは必ず日常生活で使えるはずですし、日々新聞を読むことで国際情勢の理解にもつながると思います。このように模擬国連と日常生活は大きく関わってくるのです。模擬

国連の上達のために模擬国連の練習をするのではなく、日常生活を充実した学びのあるものにすることが一番の上達につながるのではないでしょうか。「学問に王道なし」とは言いますが、模擬国連には王道ありだと僕は考えます。ちなみに、僕お勧めの「王道」はBBCのネットニュースを読むことです。ぜひご一読ください！！

模擬国連の一番の楽しみは「人と繋がる」ことだと思っています。模擬国連でできた友達とのつながりは非常に強固なものです。模擬国連の話だけではなく、スポーツや心理学、哲学や歴史など様々な分野の話をすることができます。実際僕も、模擬国連で出会った多くの友達と毎昼夜議論を交わしています。嘘です。すみません、盛りました。何はともあれ、模擬国連の友達は本当にいいものです。最近の模擬国連では連絡先の交換が少なくなっているように感じます。今回のAJEMUNを機に、また連絡先交換というオフライン会議の良き文化が復活することを切に願っています。

最後になりますが、今回の会議では模擬国連を楽しんだ方々がいた一方で、各校の人数制限によって出場できなかった方々、賞をとることができなかった方々、思うように会議行動ができなかった方々等、様々な形で悔しさを実感した方々もいらっしゃると思います。今回僕が満足のいく結果を出せたのは恵まれていると思いますし、その環境は今回の会議に関わってくださった方々、そして今まで模擬国連という活動を作り上げてきてくださった方々のお力があってこその物です。本当に皆様、ありがとうございました。



各議場講評（D 議場）

【総評】

D議場は初心者会場とは思えないほど進行がスムーズでした。特に、初めての模擬国連でみんなの前で発言するのは大変緊張したと思いますが、経験者会場と引けを取らないほどレベルが高かったです。また、どの国も積極的に発言しているように見受けられました。アンモデでそれぞれのグループに分かれた後も、チャットに各国の発言内容をまとめたりするなど、チャット機能を有意義に使い、円滑に話し合いが進んでいたグループがほとんどでしたが、中には特定の国しか発言しておらず、問いかけにも無反応なグループがあったのが残念でした。アンモデは国同士が直接交渉を行うことができる貴重な時間です。各大使、PPPで議題に関する情報や自国の情報を長い時間をかけて沢山調べ、今回の模擬国連に挑んだと思います。その努力が水の泡にならないよう、勇気を出して発言してみましょう。また、書類の共有不足で混乱が生まれているルーム、ファシリテーターを担っている大使が同時に文書作成を行なっているため、進行が滞りがちになっているグループが複数ありました。書類の共有はZoomの画面共有機能などを使用する、他の大使と協力してファシリテーターと文書作成を分担するなど工夫をすると会議がより円滑に進んだと思います。

【フロントより】

参加者の半数以上にとって今会議が初めての模擬国連だったD議場では、そのレベルを上回るレベルの議論が終始展開されました。最初のスピーチ募集の段階から下の方までスピーカーズリストが埋まったことや、最初のモデでの発言国が少数でなかったことが印象に残っています。そのモデでは地域ごとに分かれる意見と論点ごとに分かれる意見とで対立が起き、全員が納得する結論が出せなかったのは悔やまれますが、最初のアンモデでまとまってグループが形成できたのは、すべての大使が自分たちの国益を意識してそれに向けた選択をしたからだと思います。初日のグループは、各国が重要視する論点を軸にして形成され、リーダーを中心にWPの作成が始まりました。グループを纏める大使はもちろん、そうでない大使も自分たちのスタンスをきちんと発言し、必要な部分では適宜確認をとるなど丁寧に議論が進んでいきました。先述のグルーピングのためのモデが長引いたことから1日目のWPの提出期限を大幅に遅らせたこともあり、3本の文書が提出されて初日が終了しました。WPについてはフロントから指摘した点は体裁以外ほとんどなく、アウトオブアジェンダへの言及も見受けられませんでした。WPは1日目の議論の進捗報告という意味合いが強いですが、比較的具体的な政策が書かれていたように思います。もう少しグループの方向性や理念の面を詰めることができればさらに良いWPとなっていたとも考えられますが、初心者議場のものとは思えない質でフロント全員驚いていました。

2日目の朝はその説明から再開しましたが、続く質疑応答でも多数の質問が飛び交い、多くの大使が1日目の夜に各WPをしっかり読み込んできたことがうかがえました。2日目の途中から大使同士でコンセンサスをしようという動きが見え始め、途中で意見の相違がありながらもペアの1人が外交をしたことで、最終的にコンセンサスに至れたところがすばらしかったと思います。ただ終盤のアンモデでは一国の大使としての意見ではなく自分自身の意見を言っているのだろうなというところが少しありました。今回は「人種差別」というテーマなので大きな対立点があるというわけではないですが、もっと自分の担当する国の大使になりきるというのを一貫したうえで国同士の対立が起きる場面があってもよかったなと思いました。皆さんと創り上げた今大会が少しでも楽しかった、自分のためになったと思えるようなものであり、今後も模擬国連を続けたり、実行委員に挑戦したりするきっかけとなれば嬉しいです。2日間ありがとうございました。

【最優秀大使コメント】

South Africa大使　西大和学園高等学校　定岡 慶次朗

まず、今回参加させていただいたD議場を実り多いものにしてくださったフロントの皆さんに感謝を申し上げたいと思います。みなさんが楽しめるスムーズな会議進行に努めて頂き誠にありがとうございました。僕はまだ模擬国連の経験も浅く偉そうに模擬国連を語れる立場ではありませんが、今回の会議を通して見つけた「模擬国連とは何なのか」に対する答えについて話そうと思います。模擬国連をとても簡単に説明すると「各国の大使になりきり国連を再現する」ということになると思います。字面では単純そうに聞こえますが、そうとはなかなかならないフレーズだと思います。模擬国連自体がとても複雑なものなので仕方ないですね。当たり前ですが模擬国連はスピーチ以外の発言は元から言うセリフが決まっているわけではありませんから会議の進め方は参加している大使達次第です。いわば自由なのですが、完全に自由なわけではないのです。自分には割り当てられた国というものがあります。模擬国連に参加している人はこの割り当てられた国の大使になりきらなければなりません。母国でもない国の大使になりきるなんて日常生活はおろか模擬国連以外で経験することはないでしょう。何かになりきるのに必要な力はなんでしょうか。演技力、リサーチ力、色々あると思います。今回の会議に参加するまで僕はなりきるのに必要なのは確固たる準備と演技力だと思っていました。しかし、その考えは会議が始まりすぐに砕け散りました。僕が今回担当した国は南アフリカ共和国だったのですが国のスタンスを調べて会議の動きを予想して計画を立てそれ通り演じるというのがプランでした。初めての対外会議を甘く見ていたのかもしれません。僕たちが立てた計画は何一つ実現しませんでした。いわば、僕たちは無策状態になったのです。先述しましたが会議進行が大使の思うままに動く模擬国連では立てた計画がそのままうまく進むはずがありません。気付いてはいたものの僕たちは計画が総くずれになった現状に焦り動揺しました。その中で思い出したのがとある先輩に言われた「困ったら担当国のために少しでもできることを考えろ」でした。僕はとり

あえずがむしゃらに南アフリカのためにできることを考え、世界全体が合意できる人種差別問題の解決策を望む南アフリカの意思に沿おうとコンセンサスへ向け必死に動きました。はっきり言ってこの行動にはなんの計画もありませんでした。演技で言うならアドリブになるのでしょうか。結果会議をコンセンサスで終えられたのですが、会議が終わり投票に移るとき僕は自分たちの立てていた計画と現状を見比べました。僕たちは二日間完全に無策な状態で国益のためだけに動いたのですが計画していたよりも物事は上手く進んだのです。これを実力という気も準備が不要という気もありませんし、たまたまうまく行っただけだったのかもしれません。ですが僕は本当の意味で「大使になりきる」ことが成功を生んだと思っています。担当国を割り当てられるという不自由の中にある無限大の自由をどれだけ自分のものにできるか、それこそが僕がこの会議で見つけた答えでした。最後になりましたが二日間いろいろな面で僕を支えてくれたペアの園田くん、最高のペアでした。ありがとう。

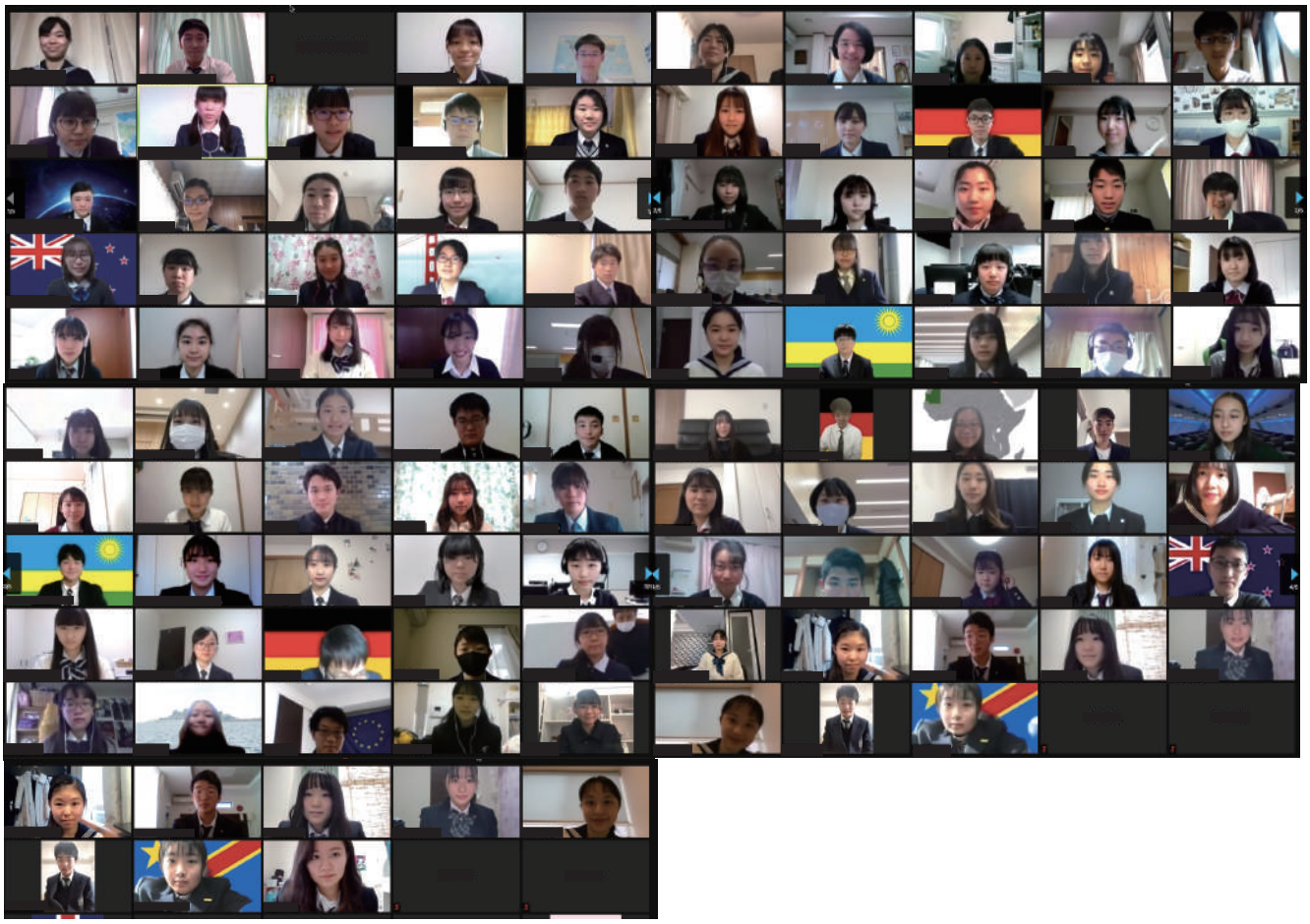
South Africa大使　西大和学園高等学校　園田 敬都

今回、僕は全国高校教育模擬国連大会に参加し、南アフリカ大使としてD議場にて出場し最優秀大使賞をいただくことができました。各国の大使さんがそれぞれの政策を持ち寄り、議論を重ねることでより良い決議案を目指す。文字に起こすと簡単なことのように思えますが、この工程を通じてたくさんのことを感じ、成長できたと思います。大会が始まる前に僕たちはペアでいろんなことを話し合いました。議題にあった自分たちの出すべき政策の相談、他国のNPを見て状況を分析したことが特に印象に残っています。「この国はこういう情勢だから、こんなことを言うだろう」とああでもないこうでもないとペアと意見を交わすことはとても楽しかったです。今回、人種差別という普段あまり馴染みのない議題について深く調べ考える機会となり、興味を持つことができました。まだまだいろんな会議や大会に参加するにつれていろんな種類の議題に触れることができるのも、模擬国連の魅力の一つだと感じます。また今回僕は初めての対外試合だったこともあり、始まる直前にはいろんな不安がありました。「今まで考えてきたことをうまく伝えられるかな」「こう言われたらどうしよう」など、緊張しすぎて震えていたほどです。しかしそんなとき、自分たちの今までの努力を信じるように気持ちの面で支えてくれたのがペアの定岡くんです。こんなふうに困っているときの、仲間の存在の大きさを気づかせてくれました。この会議を通じて仲間とのコミュニケーションの大切さを痛感できました。

会議本番は、驚きの連続でした。僕たちが予想していたものとは全く違う動きを見せる大使さんや、よく構成されたスピーチなど。どれも新しく出会うものばかりで新鮮でした。また同時に日本中にはこんな面白い人達が居るのだと楽しくなりました。やはり僕たちだけでは思いもつかないような考えに触れることができたのもこの大会のいいところだと感じました。最終的にDR提出時間に追われながらなんとかコンセンサスという形で会議を締められたときは、達成感が押し寄せ、心地いい疲労感を感じることができました。しかし自国の国益についての議論など反省点が浮き彫りになったので、今後の模擬国連で反省を活か

したいと思いました。

最後になりますが、今回の大会にあたってサポートをしてくださった実行委員・フロントの皆様、本当にありがとうございました。有意義な二日間を過ごせて、とても良い経験になりました。



各議場講評（E 議場）

【総評】

初めに議長から丁寧に議題及び模擬国連についての説明があり、また会議進行に関する動議についてはフロント側が次にどのような動議を出してほしいかまで示しており、最初から最後まで大使全員が参加しやすい雰囲気であった。

1日目、ワーキングペーパーは3グループに分かれて提出した。グループ自体はもう少しあったようであるが、Googleドキュメントでの共同作業の煩雑さや文言の作成に不安な点があるなどのことからワーキングペーパー作成に消極的な国が多かった印象である。しかしながらこの時点で特に教育、次いでヘイトスピーチについては重きを置く大使が多く、国益を考えつつ細かなところまで詰められていた。ただしその際に国連の議場設定が二の次になってしまい、二ヶ国間で支援の交渉を行う大使も少なくなく、国際益との兼ね合いを考えること、他国の大使を配慮したメモ回し(個人チャット)を活用することは改善できる点ではないかと思う。加えて、アンモデの際、終始ペアがそろって同じところにいた国が多かったために、ワーキングペーパーにおいて話題によって文言の完成度に顕著に差が出た。

2日目、1日目よりもペアデリゲイツ制であるメリットを活かし、ペアで違う行動をしつつ協力出来ている大使が増えた。ワーキングペーパーに対する質問とその回答の時間には、各グループのリーダー国がとても分かりやすく説明したため、DR提出に向けて無駄がなく良かった。そのため、1日目に手薄になった話題まで行き届いており、多くの国の主張を汲んだDRが提出された。

全体として、会議途中のスピーチにも柔軟に対応していた大使も多く見受けられ、問題解決への熱意の絶えない会議であり、とても有意義な素晴らしい会議であった。

【フロントより】

E議場は初心者を中心とした議場ということもあり、フロント一同、議論が果たして進むのか、大使が国益をしっかり守ることが出来るのかなど、多くの不安を抱えていました。しかし、私たちの不安とは裏腹に議論は活発に行われており、担当国の国益を守るために積極的にスタンスや政策を発信していく大使が多く見られました。また、それと同時に同じブレイクアウトルームにいる大使を議論から置いていくことのないように配慮している大使もおり、議場にいた大使全員の意見がしっかり交渉の場に出されていたように思います。最後に出されたDRも議論した内容を反映したものとなっており非常に内容も充実したものでした。投票は賛成と反対がくっきりと分かれる結果となってしまいましたが、各大使が担当国の国益と真摯に向き合った結果がDRに色濃く残されており、大変有意義な会議になりました。

このような良い会議になったのは「質問をする大使」が多かったからではないかと思います。ある大使が提案した政策や文言を字面通りに理解し納得するのではなく、その政策などの意味や背景、具体的な実施例などを積極的に聞くことで、議論の内容が濃いものとなっていき、よりそれぞれのDRのカラーが出ていたように感じます。実際にこのように質問を積極的にしている大使はフロントから見ていても一際目立っていました。

さて、初心者議場ということもありますので、フロントから大使の皆様に少し今後の模擬国連についてアドバイスをしたいと思います。

会議を見ていますと、議場全体の状態を把握できている大使がいなかったように感じます。この結果、グループのコンバインに向かうのに時間がかかったり、議論に参加していない別グループの大使から投票で賛成をもらったりするのが難しくなってしまったのではないでしょうか？おそらく、議場全体が見えている大使がいたら、コンバインの作業もスムーズに進み、あわよくばコンセンサスも狙えたのではないかなと思います。このような大使の存在はコンバイン作業の効率化を可能にするだけでなく、会議の前半での議場全体としての方向性の提示を行ったり、会議全体の時間管理をしたりと様々な貴重な役割を担うことが出来ます。ただ、当然ですが全員が全員議場の方向性の提示を行うとすると議場が破綻してしまいますから、議場全体の状態を把握しながらも、担当国の国益と向き合いつつ会議行動を考えるようにするといいと思います。

今回E議場に参加した方はあと1年間模擬国連活動に参加できる方が多いでしょう。たくさんの会議に参加して、少しずつ成長しながら模擬国連の新たな魅力を発見していってほしいです。今回のこのAJEMUNがみなさんの模擬国連の記憶のかけがえのない一ページ目になったことを願っております。2日間本当にお疲れさまでした、そして、ありがとうございました！

【最優秀大使コメント】

New Zealand大使　昭和女子大学附属昭和高等学校　塩谷 日菜・石川 響

今年の秋ごろ、もともと予定していた留学がコロナウイルスによって頓挫し、なにかしら国際的な視野に触れる機会を持ちたいと思いました。そのような時に「第4回全国高校教育摸擬国連大会(AJEMUN)」があることを知り、この大会への参加を決意しました。

今会議ではニュージーランド大使として、人種差別の撤廃のためにはどうしたら良いか考えました。大会前は、ニュージーランドという国について調べ尽くしました。PPPは調べる内容が大体決まっています。その空欄をすべて埋めるために、時に日本語以外のサイトを調べ、国連の公式サイトの条文や決議文に目を通すなど、普段は絶対に読むことのない文章に触れました。調べていくと、ニュージーランドという国は世界的に見ても人種差別解決に非常に関心が高い国だということが分かりました。特に先住民族とパケハ(マオリ族の言葉でヨーロッパ人)とは国際的な見本になるほど良好な関係を作ってきているのです。それを知った時、「人種差別」という議題の会議で主導権が握れることを確信しました。

BGの論点を何度も読み返し、自国に対して大きなメリットがある。というより、自国に特にデメリットがなく、より多くの国から賛同を得られるという部分に重きを置いた決議文を作りたいと、NP作成に励みました。

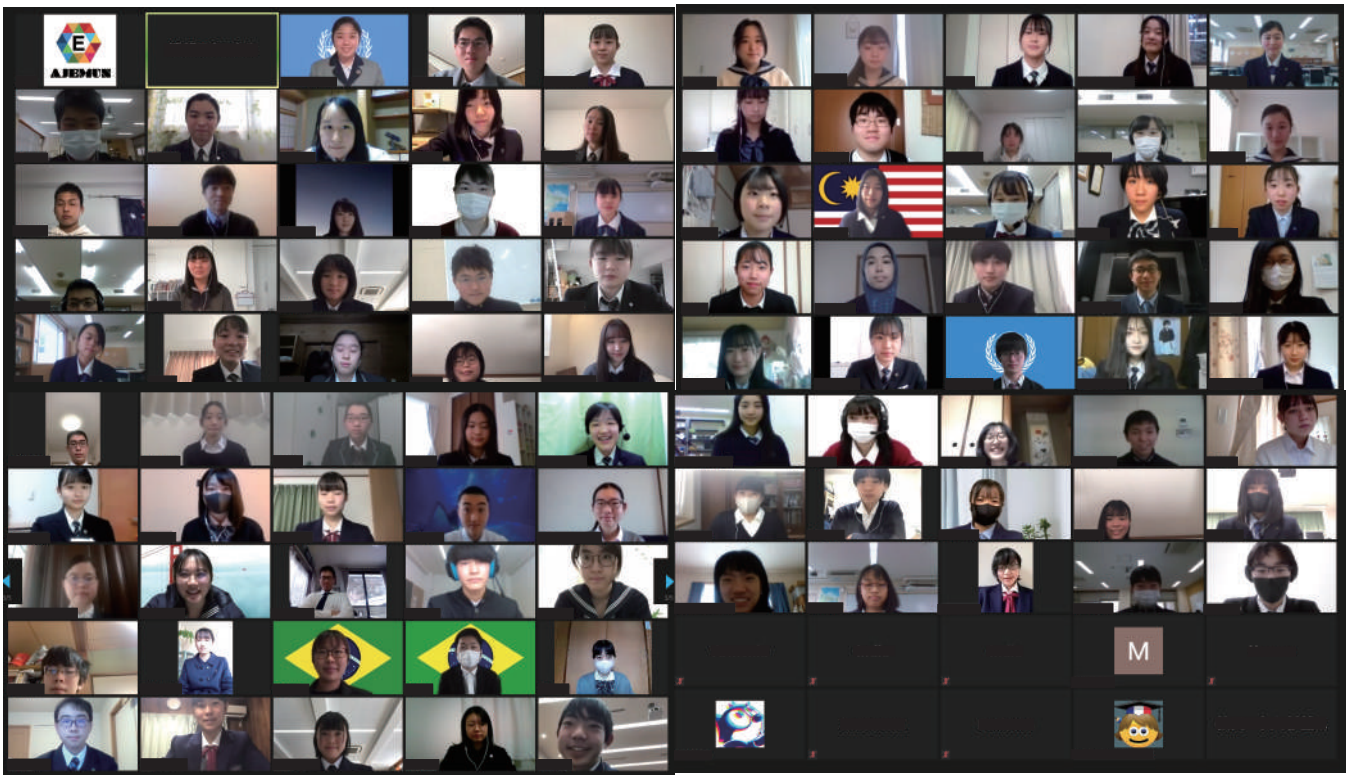
初日の会議では、自国で特に問題になっているヘイトスピーチと教育という2つの論点をペアと別れて分担して、各自で担当しました。多くの国の大使がペアでブレイクアウトルームにいるところに、ひとりきりで参加し、意見をすることはとても不安でした。しかし、ペアも別の部屋で頑張っているのだから、と互いに信頼しあい、それぞれ別のグループでWPを作成することができました。さらに、2日目では前日の不安を夜のうちに解消したうえで、それぞれのいたグループを仲立ちして、両グループで1つの決議案をまとめて作成するに至りました。このことは大きな成功要因だったと思います。

一方で、交渉のコツを知ることができました。約50ヶ国が集まり1つの結果を出すための話し合いをするというのは当然難しいことですが、そこにすべての国の意見をまとめることができる1つの国が出てくれば、交渉はスムーズに進みます。

しかし、今大会では反対意見が出ないことに気を使い、すべての国の意見を平等に聞くばかりで、うまくまとまらず、具体的なことまで十分な話し合いができませんでした。このことは次回に生かしていきたい反省点です。また、周りの国の意見をまとめる国になるためには、積極的に発言し、何が必要で何が必要でないかを判断し、時に切り捨てて会議を進める力が必要だということ、加えて、事前の周到な準備が大切なのだということを学びました。

今回「初心者議場」に参加してみて、大会の雰囲気と進め方に慣れ、「最優秀大使賞受賞」という大きな自信を持つことができました。機会があればぜひ「一般議場」での会議にも挑戦してみたいです。

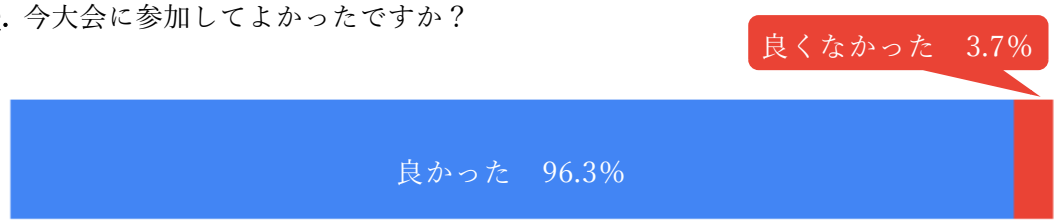
最後になりましたが、先生方、大会運営の皆様、そして協力して話し合いを進め、決議案を採択するに至った全大使の皆様、ありがとうございました。


AJENUS
M

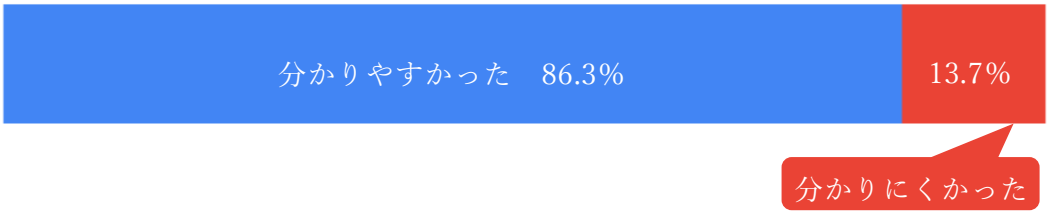
参加者アンケート集計結果

Q. あなたはこれまでに模擬国連に参加したことがありますか？

Q. 今大会に参加してよかったですか？

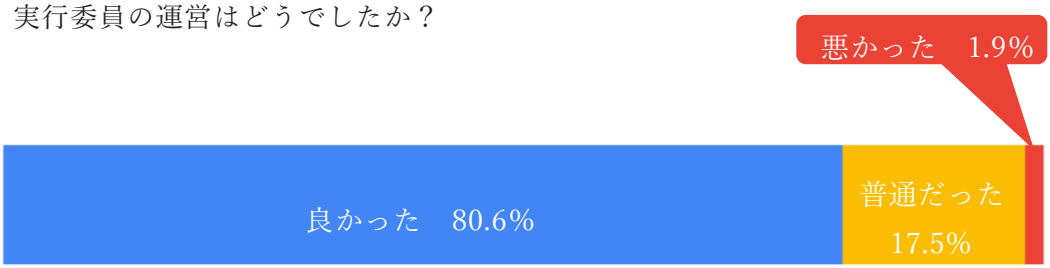


Q. 大会資料（BG・会議細則・HPの情報など）は分かりやすかったですか？

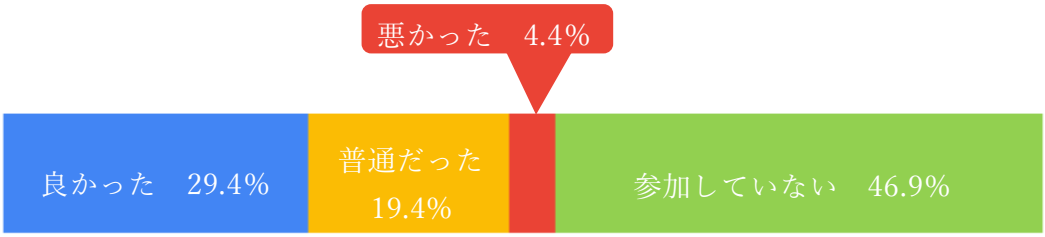


Q. 今大会はAJEMUNでは初めてオンラインで実施されましたが、
オフラインで行う会議と比べてどうでしたか？

Q. 今大会の運営は高校生が実行委員となって行われていますが、
実行委員の運営はどうでしたか？



Q. 交流会はどうでしたか？



アンケートに寄せられた意見(一部抜粋)

オンライン開催について

・WPやDRの編集に誰でも参加できたため良かった。
・複数の人が一斉に話すと誰が話しているか分からなくなった。
・全ての大使が意見を言いやすい雰囲気になっていたと思う。
・休憩時間が少なく、ずっと画面を見ていたのでしんどかった。
・ネット環境によって聞き取りづらい部分があった。

今大会の感想など

・BGがとても読みやすかったです。
・交流会はとても楽しかったので続けて欲しいです。交流会という形で、同じ議場の人と話してみたかったです。
・初めての参加でしたが、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。
・全国の高校生と交流ができたので良かったと思う。
・この大会は、新しいことに挑戦できた貴重な経験になりました。関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。
・さまざまな考え方の人とともに会議ができ、とても刺激を受けました！
・とても有意義な二日間になりました。次はぜひオフラインで参加してみたいです。
・やっぱり顔を合わせて話し合いたいなと思いました。
・このハイレベルな大会に参加させていただき、良い刺激を受けられたことに感謝しています。運営をしてくださった方々、本当にありがとうございました。
・2日間、本当にありがとうございました。準備から当日の運営までお疲れ様でした。私にとって最後の会議がAJEMUNだったのですが、AJEMUNが最後で良かったです！お疲れ様でした！
・主催してくださった皆様ありがとうございました。とても楽しく、最後に思い出となる良い会議でした。ありがとうございました。
・満足して引退できそうです。運営、ありがとうございました！！

大会事務局長より

第 4 回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）大会事務局長
公文国際学園中高等部　　米山　宏

コロナ禍中での御礼

何もかもが異例でした。新型コロナウイルスの影響により、本来夏に開催予定の大会が年明けの 1 月に延期されました。それも大会史上初のオンライン大会として。大使の皆さんにはオンラインで参加していただきましたが、せめて生徒実行委員は一か所に集合して大会運営を担ってもらおうと予定していました。しかし、年明けの緊急事態宣言により、それすらも不可能となり、結局大会役員の教員のみが集合して開催へと漕ぎ着けました。そんな異例ずくめの大会でしたが、すべての議場でこちらの心配が杞憂となるような活発な議論が繰り広げられたことに大会役員一同が安堵した次第です。

参加大使のみなさん、オンラインという方式はいかがだったでしょうか？もちろん模擬国連の大使間交渉は対面でおこなわれるのがベターだと思われます。最初のグループ形成時の場の雰囲気であったり、身体全体から発せられる相手の瞬間的な反応など、参加大使は五感を総動員して感じ取り、それを交渉戦術に生かしているはずだからです。残念ながらオンラインではこれらを感じ取ることは難しいでしょう。また、あうんの呼吸・アイコンタクトなどという言葉もオンラインからは遠い存在かもしれません。

では、オンラインにはデメリットしかないのでしょうか？これも多くの方が感じていると思われますが、オンラインならではのメリットはいくつもあると思われます。そもそも模擬国連は会議ですから、今回利用した Zoom をはじめとするオンライン会議システムとの親和性は高いはずでした。普段は輪になって行うグループでの交渉時に話し手の表情がよく読み取れる、グループ間の行き来がしやすい、そして常に資料が共有されるため今何を話しているのかについて理解しやすく、結果的に会議難民を出しにくいシステムであることなどはすぐにあげられるメリットでしょう。しかし、その最たるものは「時空を飛び越えて集える」ということです。わずか 1 年前に誰が日本各地や海外に住んでいる高校生を相手に高校生自身が主催者として手軽に模擬国連を開催できると考えたでしょうか？大会閉会式の講評でも述べましたが、これはもう革命といっても過言ではない出来事だったと思われます。

さて、今回は「人種差別」という古くて実は新しい議題について議論してもらいましたが、いかがだったでしょうか？開会式の基調講演での星野先生のお話の中にも緒方貞子先生の教えとして「共にあろう」とすることが大事であるという一節がありました。人種の差を超えて「共にあろう」とする姿勢がお互いの軋轢を生まないためのファーストステップである

ことは論を待ちません。そこからさらに具体的な方策へと深堀りして問題解決への道筋をつけていくのが模擬国連の醍醐味と言えるでしょう。ぜひその模擬国連の生みの親とも言える緒方先生や星野先生のお言葉を胸に「人種差別」のみならず地球的課題についての深慮とリサーチを継続して欲しいと思います。

私たちはコロナによって新しい模擬国連の形を手に入れました。今年のオンライン大会に参加した大使の皆さん、そして実行委員はじめ関係者の皆さんにはこの革命をもっともっと推し進めて欲しいと願っています。ぜひコロナ禍で生まれたこの形をもって、コロナに負けずに「ＭＵＮを止めるな」の精神を貫いていってください。

最後にこの場をお借りして、大会にご協力いただいたすべての皆さま、ご協賛いただいた企業・団体の皆様方に厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。これをもって今年の私の大会事務局長としての挨拶に代えさせていただきます。

参加校一覧

浅野中学・高等学校
アサンプション国際高等学校
茨城県立竹園高等学校
江戸川学園取手高等学校
愛媛県立松山東高等学校
大阪信愛学院高等学校
大谷高等学校
大妻高等学校
小林聖心女子学院高等学校
海城中学高等学校
開智中学高等学校
海陽中等教育学校
鹿児島情報高等学校
神奈川県立希望ケ丘高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校
関西外語専門学校国際高等課程
関西創価高校
岐阜県立岐阜高等学校
岐阜県立関高等学校
公文国際学園高等部
久留米大学附設高等学校
群馬県立中央中等教育学校
ぐんま国際アカデミー高等部
佼成学園高等学校
佼成学園女子高等学校
駒場東邦高等学校
済美高等学校
酒田南高等学校
滋賀県立米原高等学校
実践女子学園高等学校
渋谷教育学園渋谷高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校
頌栄女子学院高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校
駿台甲府高校
聖心女子学院高等科
専修大学松戸高等学校
洗足学園中学高等学校
玉川学園高等部
中央大学杉並高等学校
桐蔭学園高等学校
東京学芸大学附属国際中等教育学校
東京女学館高等学校
徳島県立城ノ内高等学校
鳥取県立鳥取西高等学校
名古屋高等学校
西大和学園高等学校
浜松学芸高等学校
雲雀丘学園高等学校
富士見高等学校
富士見丘高等学校
法政大学国際高等学校
松本秀峰中等教育学校
三田国際学園中学校高等学校
三輪田学園高等学校
武庫川女子大学附属高等学校
茗溪学園高等学校
山形県立山形東高等学校
横浜翠陵高等学校
洛南高等学校
ラ・サール高等学校
立教女学院高等学校

他 1 校　計 63 校

大会実行委員一覧

【実行委員長】
楜澤 哲（駒場東邦高等学校）

【フロントセクション】
セクションリーダー：江原 颯希（渋谷教育学園幕張高等学校）
伊丹 萌華（頌栄女子学院高等学校）
岩渕 ひまり（公文国際学園高等部）
宇佐美 恵満（公文国際学園高等部）
江上 すみれ（公文国際学園高等部）
大麻 陽菜（茨城県立竹園高等学校）
菊地 咲楽（公文国際学園高等部）
後藤 慧（渋谷教育学園渋谷高等学校）
後藤 雅尚（岐阜県立関高等学校）
佐伯 恵怜菜（聖心女子学院高等科）
高橋 美帆（明治学院高等学校）
髙見澤 茉奈（公文国際学園高等部）
谷口 優葉（公文国際学園高等部）
丹治 相来（公文国際学園高等部）
水木 亨（玉川学園高等部）
宮澤 佑奈（聖心女子学院高等科）
妻鹿 涼介（渋谷教育学園渋谷高等学校）
持田 隼人（海城高等学校）
山本 晴菜（大妻高等学校）
脇田 理花（渋谷教育学園幕張高等学校）

【運営受付セクション】
セクションリーダー：天野 晴斗（浅野高等学校）
津嘉山 栞（豊島岡女子学園高等学校）
古川 美月（頌栄女子学院高等学校）
李 宜珍（佼成学園女子高等学校）

【情報テクニカルセクション】
セクションリーダー：矢野 貴大（渋谷教育学園渋谷高等学校）
鈴木 那菜（実践女子学園高等学校）
中原 瑠南（加藤学園暁秀高等学校）
三宅川 ほの花（松山東雲高等学校）

実行委員・大会役員（一部）

大会役員一覧

【大会事務局長】
米山 宏（公文国際学園中等部・高等部）

【フロントセクション】
齊藤 智晃（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）
後藤 芳文（玉川学園高等部・中学部）
室崎 摂（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校）
藤山 由彦（駒場東邦中学校・高等学校）
関 孝平（大妻中学・高等学校）
竹林 和彦（早稲田実業学校）
飯島 裕希（頌栄女子学院中学校・高等学校）

【運営受付セクション】
宮坂 武志（浅野中学・高等学校）
柿岡 俊一（埼玉県立浦和西高等学校）

【情報テクニカルセクション】
岡 祐司（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校）
三浦 佳奈（富士見中学校高等学校）
内田 美穂（三輪田学園中学・高等学校）

【大会顧問】
星野 俊也（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授）

主催・後援・助成・協賛

【主催】
全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

【後援】
文部科学省
特定非営利活動法人　国連ウィメン日本協会
一般財団法人　東京私立中学高等学校協会
公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター
一般財団法人　日本私立中学高等学校連合会
東京都教育委員会
外務省
全国都道府県教育委員会連合会
国連広報センター
（順不同）

【助成】
公益財団法人 公文国際奨学財団

【協賛】
株式会社　公文教育研究会　グローバル・コミュニケーション＆テスティング
学校法人河合塾（海外大進学プログラム　AGOS×K）
学校法人河合塾　みらいぶ
株式会社　第一学習社
株式会社　帝国書院
株式会社　山川出版社
東京書籍株式会社
株式会社　近畿日本ツーリスト首都圏　首都圏国際交流センター
（順不同）

次年度大会のご案内

次年度の第5回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）についてご案内いたします。一同東京に集まって開催することを予定しております。皆さま是非ご参加ください。

開催日時：2021年8月7日（土）、8日（日）
開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

※予定は変更になる場合があります。
今後の状況によっては、第4回大会同様オンラインでの開催になる可能性もあります。

AJEMUN